

平成26年度 佐渡市国語部 活動報告

部長 白井 昭子

1 研修の方針

- ・佐渡市小学校学習指導研究会参加を通し、授業改善の在り方を見付け、指導力向上を図る。

2 研修の概要

- (1) 日時 10月29日(水)
- (2) 会場 佐渡市立羽茂小学校
- (3) 研究主題

「かかわり合いながら伝える力を高める子どもの育成
～国語科における単元を貫く活動の工夫を通して～」

(4) 授業の実際

① 第1学年(授業者 齋藤 綾子 教諭)

ア 単元名「6年生に音読劇を発表しよう」 教材名「くじらぐも」

イ 授業の実際

- ・(単元全体の学習計画を示す)「国マップ」で、雲のくじらに飛び乗りたい子どもたちの様子を動作化するという本時の学習を確認する。
- ・子どもたちがどのくらいの高さをジャンプできたのか物差しを用いて確認し、子どもたちの気持ちを吹き出しに書かせ発表させる。
- ・吹き出しを生かし小グループで動作化し合った後、他のグループの発表にアドバイスをし合う。
- ・子どもたちの気持ちの高揚とともに、声の大きさが大きくなっていくことに注目させる。



1年生：グループで動作化



4年生：キャッチフレーズ完成

② 第4学年(授業者 吉田 航 教諭)

ア 単元名「1,2年生に本の世界への招待状を送ろう」 教材名「ごんぎつね」

イ 授業の実際

- ・「国マップ」で、ごんぎつねのお話を紹介する短いキャッチフレーズ作りをするという本時の学習を確認する。
- ・ごんと兵十のどんな性格について伝えることが、1・2年生の興味をひくのか小グループで話し合う。
- ・各グループから出されたキャッチフレーズについて全体で話し合う。

(5) ご指導

① 指導者 県立教育センター 副参事 山口 学 様

② 主な指導内容

ア 単元を貫く言語活動は、教材文の読み取りに必然性の生まれる活動を設定しなければならない。

- ・例えば、佐渡の柿をテーマに俳句を作らせる際、「みんなの作った俳句を新聞に掲載し、おいしい柿を全国に向けて宣伝しよう」と言語活動を組めば、子どもたちは、教科書をもう一度読み直したり、俳句の名人に作り方のコツを伝授してもらったり能動的に学ぶであろう。また、互いの俳句を詠み合い、よさを見付けたりアドバイスをしあったりするであろう。

イ 子どもたちの学び合いの中に、教師の評価が必要である。

- ・できた俳句は「全てよい」とするのではなく、教師の中に判断基準をもち、善し悪しをジャッジすることが必要である。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 他者を意識する言語活動設定により学習に必然性が生まれ、子どもたちは学びに意欲的になる。
- ② たくさんの考え方に対して教師は判断基準を明確にしておき、ジャッジすることが必要である。また、その視点を授業の初めに示すことで、子どもたちの学びも深まっていく。

(2) 課題

- ① どんな言語活動を設定するかにより、子どもたちの学びの意欲が変わる。他者を意識した言語活動の設定のみならず、教材文の読み取りに必然性の生まれる言語活動について来年度は研修を深めていく。